

令和4年 **1 2**月の大阪森林便り



今月の木の話 **木材の「あて」**

*山の斜面に生育している樹木や平地でも傾斜している樹木では、幹が太くなる過程の中で一部に偏った成長の仕方をします。

*偏った成長部分のことを「あて材」といいます。

*あて材を含んでいる木材は、狂いが大きくて強度が低い等の欠点があります。

*枝が鉛直方向から傾いて肥大成長するときにもあて材が形成されます。

※鉛直方向：糸の先に重りを垂らしたときの糸の方向。重力の方向。

*針葉樹のあて材は、傾斜した幹の下側部分の形成されます。

・幹に力が加わったときに圧縮する力を受けているので「圧縮あて材」と呼ばれます。

・リグニンという成分の量が多いので、年輪は黒褐色になります。

*広葉樹のあて材は、傾斜した幹の上側部分に形成されます。

・幹に力が加わったときに引っ張りの力が作用するので「引っ張りあて材」と呼ばれます。

・リグニンの量が少ないので、白っぽい材料となります。

(木材利用システム研究会 木力検定委員会 木力検定 木を学ぶ 100 問より抜粋引用)





合板、中国産に揺れる 品質面に懸念、流通停滞

国産は減産、価格高止まり

- * ロシア産材料の代替として中国産合板の輸入を増やしたものの、品質面の懸念が強まり流通が滞っています。
- * 住宅向けの需要が振るわず、合板在庫は高水準で推移。
- * 輸入品が減っても国内メーカーは減産を緩める姿勢をみせず、相場は最高値圏で高止まり。
- * 一部の中国メーカーの合板で日本農林規格（J A S）認証が10月10日に停止。
- * 中国産合板は今年に入って輸入が急増。
- * 9月の中国産針葉樹合板の輸入量は、6月のおよそ4分の1に減少。
- * メーカー各社は秋から10~20%の減産に着手。
- * 10月の国産針葉樹合板の生産量は、減産の影響で前月比1割減。
 - ・ 出荷量は0.6%の微増。
 - ・ 在庫は4か月連続で増加して、2年4か月ぶりの高水準。
- * 針葉樹合板の東京地区の間屋卸価格はこの1年で5割上がり、最高値で推移。
- * 輸入品の減少と国内の減産で相場は踏みとどまります。
- * 合板の高値が長期化すれば住宅の建設コストが高止まりし、需要の回復を遅らせる懸念も。

（2022年11月30日 日本経済新聞記事より抜粋・引用）

